

2022年度 WAM助成金事業 (地域連携活動支援事業)



チーバくん

ちばSDGs
ちばSDGsパートナー191号

身近な地域で通える心の拠り所 ホッとステーション報告書



(事務局)

特定非営利活動法人リンク



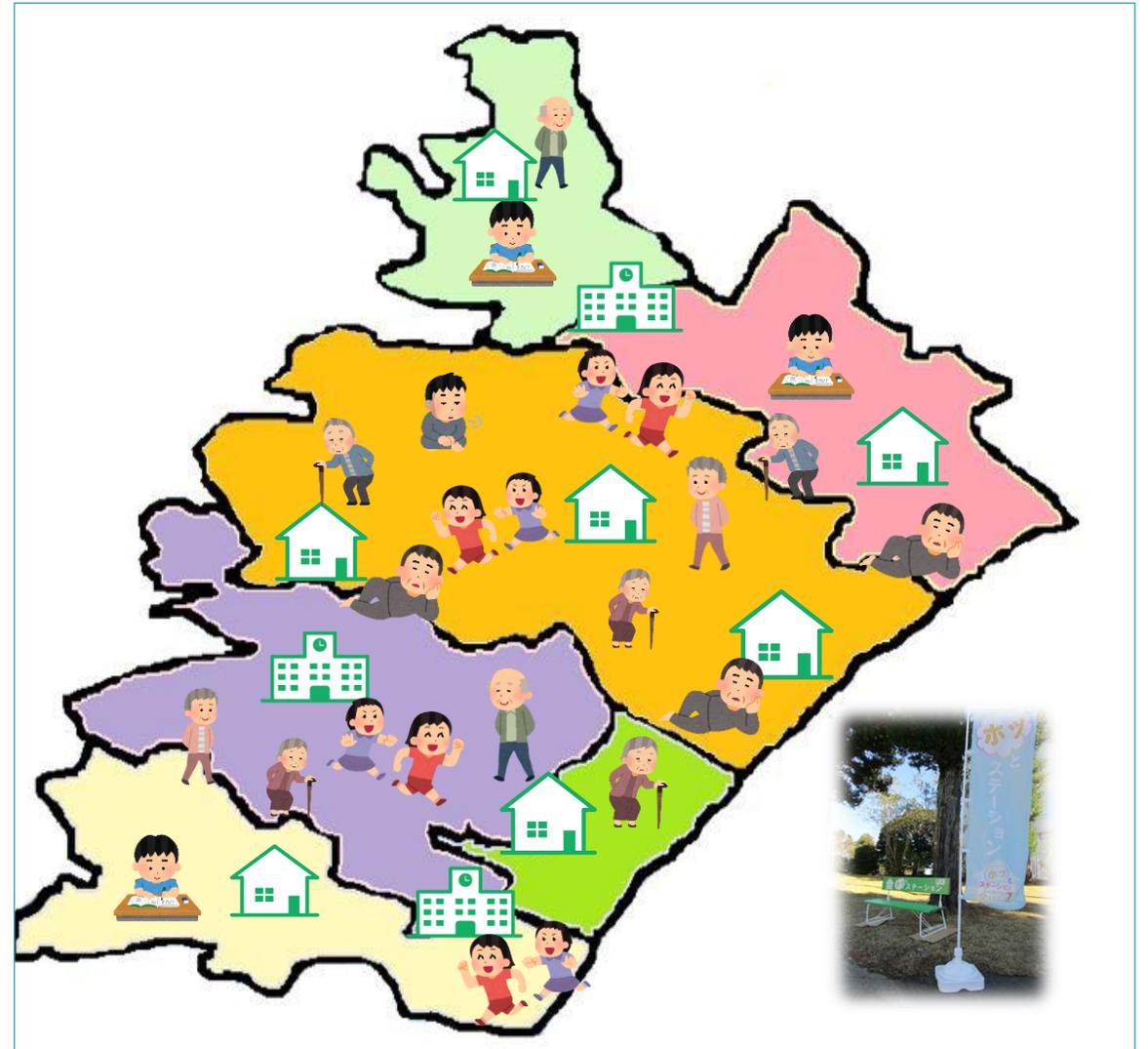
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



1.ホッとステーションとは(1) 活動主旨・事業概要

【活動趣旨】

- 地域住民誰もが、地域で安心して過ごせて相談できる場所、会社や学校でもなく自宅でもない、安心して過ごせる「居場所」を創り、孤独・孤立の解消及び、困りごと相談等の支援が受けられるなど、社会参加のきっかけを創れる場所として「ホッとステーション」を地域に設置する活動を行った。
- 趣旨に賛同いただける、地域の機関、団体、店舗を協同機関と位置付けて、既存スペースを提供してもらうことで、住民が身近な地域で気軽に立ち寄れる場所を増やしていく。
- 協同機関同士が、ネットワークを構築することで、地域の活性化及び災害発生時の相互協力体制が作れることも目的としている。



1. ホットステーションとは(1) 活動主旨・事業概要

【事業概要】

1. 協同する機関・団体・店舗の敷地の空きスペースに、ホットステーションベンチやのぼり旗、ステッカーを設置していただき、地域住民が安心して過ごせる場所を提供し、孤立や孤独の解消、社会参加のきっかけになれる場所を創ることを目的にしている。個人が抱えている困りごとを相談できる場所であることかつ、専門的な支援につながることも目指している。

居場所の提供は、協同機関の可能な範囲でお願いしていることも特徴である。

協同機関の任意の活動として、地域の方の困りごとの受け止め、相談機関につながる場所として認識がひろがるよう活動を行っています。

2. 協同機関同士の連携やイベント情報、災害時の情報共有を行うために、LINEWORKSの活用を行い、つながる場所を地域の点から面への広がりを目指している。



1. ホットステーションとは(2) 重層的支援とホットとST

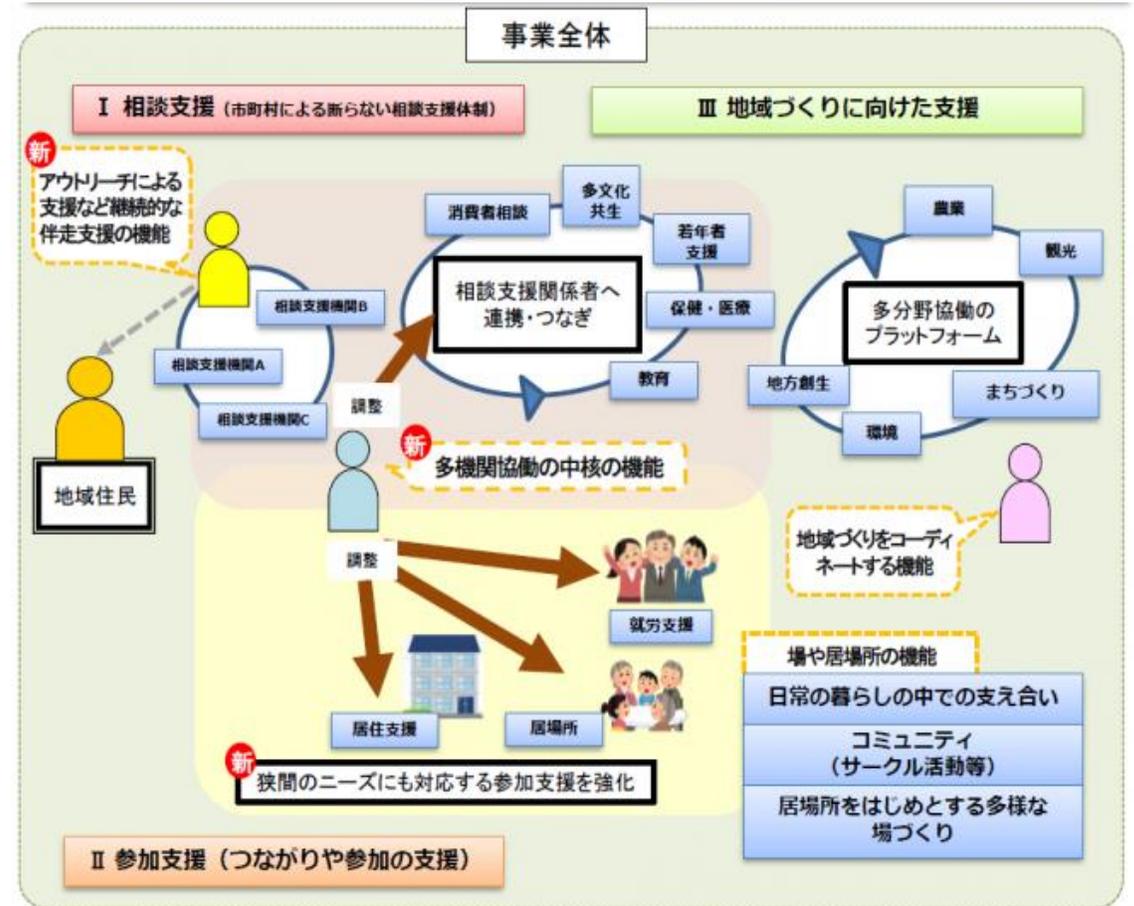
国が目指す重層的支援イメージ

重層的支援とは

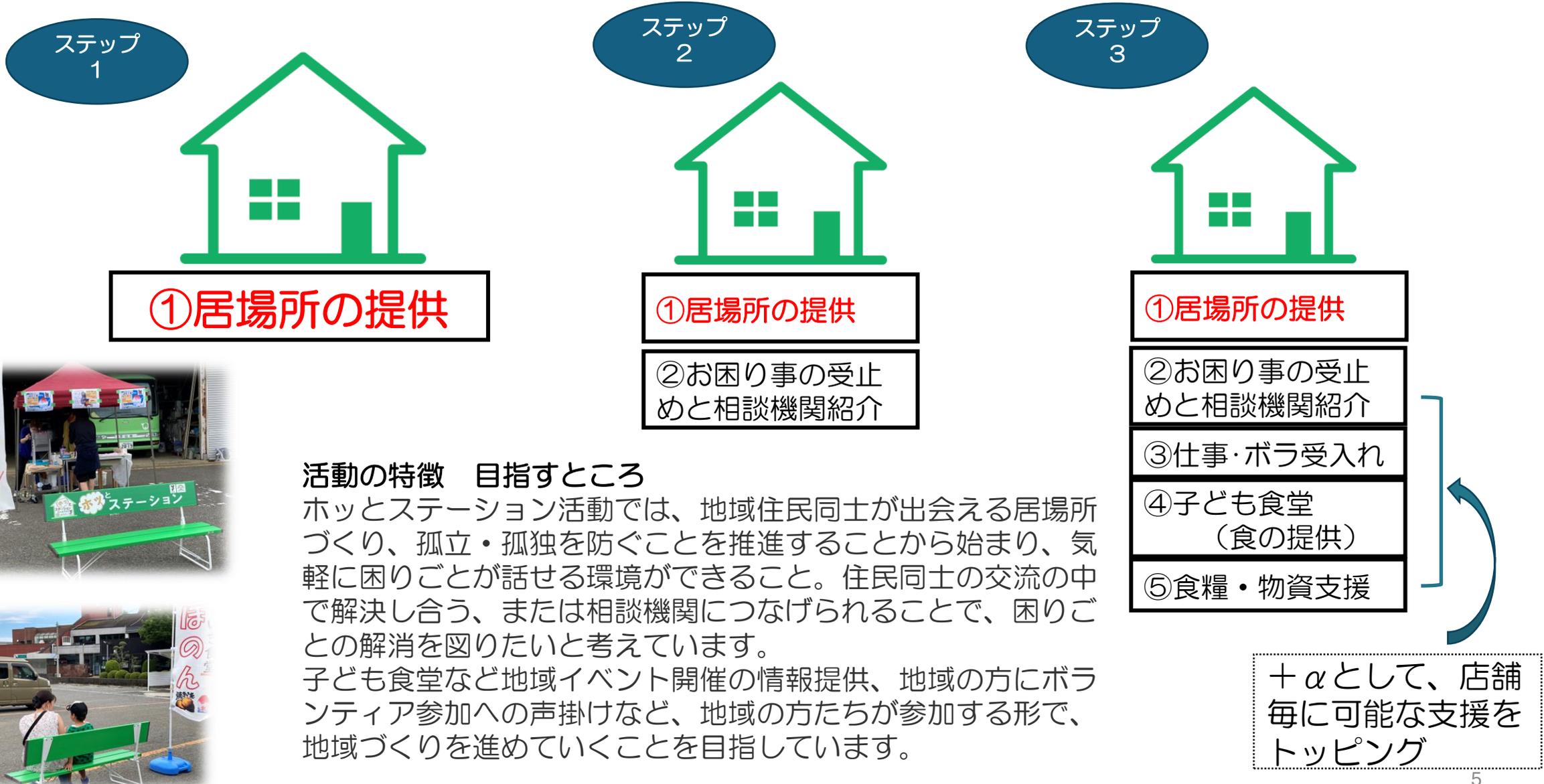
地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、市町村において属性を問わない1.相談支援、2.参加支援、3.地域づくりに向けた支援を、一体的に実施する重層的支援体制整備事業が創設された改正社会福祉法が令和3年（2021年）4月1日から施行された。

制度や分野ごとの「縦割り」「支え手」「受け手」という垣根を越えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源（さまざまな取り組みや制度、ボランティアなど）が、世代や分野にかかわらずつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共につくっていく社会のこと。

ホットステーション事業でも、ご賛同いただいた地域の協同事業所と協力・連携で、人と人のつながりができる中で、強い地域づくりができるよう目指している。



1. ホットステーションとは(2) 重層的支援とホットとST



2.子ども食堂（ちいき食堂）「ほのん」の開催

食を通じて、地域の方と交流をして、孤独や孤食の解消を図り、食の楽しさを伝えるとともに、顔の見える関係でつながることで、気軽に困りごとが話せる環境をつくれることを目的としている。地域の高校、大学にも協力をいただき、生徒への食の提供を行いながら、気軽に困りごとの相談ができるよう活動している。地域のイベントにも積極的に参加して、地域の方へのPR活動、気軽な相談ができるよう活動をしている。

ちいき食堂ほのんを16回実施

令和5年3月1日現在（令和4年6月以降）

- ・地域行事に参加して開催 8回
- ・高校・大学で開催 4回
- ・ホッとステーションフェスタ 1回
- ・法人リンクで主催 3回

参加者合計1,644名



3.フードバンク・物資支援活動「ほのん」の開催

フードバンク・物資支援活動【ネットワーク】

フードバンク・物資支援活動「ほのん」は、物資支援を通じて生活困窮者への支援を行い、様々な生活上の相談の機会につながるよう活動をおこなっている。協同機関と合同でイベントを開催するなど、活動のネットワークの構築も図っている。

地域住民の方にも、フードバンクの実際を知ってもらうこと、食にまつわるSDGsの意識を高めてもらうために、賞味期限の近い食品に触れてもらい、フードロスの問題意識の向上に寄与する活動を行っている。

フードバンク・物資支援

64回 68世帯に実施（令和4年度）

フードパントリー

6回実施 合計1,050名に提供（令和4年度）



4. 地域サポーター・ボランティア



5. 協同機関ネットワーク 効果と活用

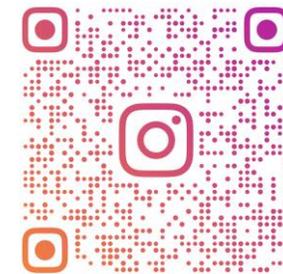


協同機関同士の情報共有のために、ラインワークスの活用を行っている。ラインワークスへの登録いただいている協同事業所は39箇所にあたり、これからも随時協力をいただいてラインワークスの活用を広げていきたいと考えている。
また、インスタグラムの活用を始めるなど SNSを活用したネットワークを広げていく。

加入するメンバーはQRコードをスキャンし、加入申請を行なってください。



Instagram



HOTTO_ST.3637

ラインワークスの投稿は、ホッとステーション事業関連に特化したものではない。協働事業所が、自由にイベント情報を発信してもよい仕組みになっている。
事務局からのホッとステーション活動の報告の他、協同事業所から、地域や個々の事業所で行うイベントの周知や、地域情報の掲載も行われている。
この普段からのつながりと情報共有が、相談者への連携や災害時の情報発信に大いに役立つと考えている。



第4回 ちよろっと山武5kmウォーク 2022年 10/30(日) in 松尾

魅力発見! 松尾町のルーツを巡る! ご存じでしたか?かつて松尾町に「日本最後の城」と呼ばれた「松尾城」を建設していたことを知った松尾城の歴史を歩いて巡りましょう!

参加費 500円 (保険代、参加記念品) ※参加費は受付時に頂きます ※少額決済、現金や現金書留も受付可 ※当日の都合は、前日までに公式サイトで発表します

スタート8ヶ所 松尾公民館・大塚町公民館・松尾公民館・ついでに 実業神社・松尾公民館

【受付】 9:00~ 【開会式】 9:30 【スタート】 9:45頃 【終了】 12:00頃

コースは一部変更する場合がございます

QRコードでOK!

ぐるっと山武 50kmウォーク実行委員会 電話: 090-2445-5010(中) 公式サイト <http://sanmu50km.com> 50kmウォーク 秋葉

参加申込はインターネットか FAX 0475-72-4001 当日受付もOK!

氏名(フリガナ)	性別	住所	携帯番号	メール
	男			
	女			
	男			
	女			

6.活動エピソード (1) (2)

(1) ホットつながるフェスタ2022

令和4年12月2日「食でつながる地域づくりとSDGs」をテーマに、地域の方を対象としてフェスタを開催しました。

第1部では、有識者の方をお招きして、食でつながる地域づくり、フードロス・食糧支援について講義を聞き、現状と課題を認識しました。また、ホットステーション協同機関の紹介と、協同事業所からのエピソードを披露いただきました。

第2部では、非常食の試食会、ちいき食堂、賞味期限が近い食材のフードパントリーを行い、食を無駄にしないことの大切さについて学びました。



(2) 城西国際大学 (くじらキッズ)

令和5年1月19日、城西国際大学とのコラボ企画として、子育て支援ルーム『くじらキッズ』前で、ホットステーション×SDGs×フードロスをテーマに、子ども食堂を開催！

初めての保存食(アルファ米)の試食、フードパントリー(お米の提供)、焼き芋の提供を行いました。

初めてフードロスの現状を知った人やSDGs活動に参加した人がとても多く、コロナ禍において学生にとっての「体験」がとても多くの意味を持つことを深く感じました。



6.活動エピソード (3)

(3) 松尾高校 校内居場所カフェ



11月18日・12月19日の二日間、松尾高校で福祉コースの生徒、山武市地域包括支援センターや子ども食堂を行う障害福祉サービス事業所、城西国際大学、千葉県の協力で、校内居場所カフェ（子ども食堂）を開催。全生徒約300名が参加し、コロナで3年間一度も入る機会がなかった合宿施設の利用、SDGs・フードロスの理解など、楽しみながら社会問題を学んでもらうことができました。



6.活動エピソード (4) (5)

(4)フードバンク&フードパントリー

フードバンクの需要は増えており、食品の提供も、会社、事業所、お寺等をはじめ、市町を通じて企業より提供を受けることが増えています。

非常食の食体験では、今の非常食はとても美味しくなっていることに感動される声が聞かれた。これまで、非常食はおいしくない非常時の食べ物と思っていた方から、これなら、普段でも食べられるので備蓄していても無駄にならないという声が聴かれ、非常食の備蓄をするきっかけにもなっている。



(5)持ち込みエピソード①

デイサービスこころ様

ホッとベンチを、通りの面した場所に設置しています。

天気の良い日に、利用者様の一人が、このベンチに座って読書をされることを日課とされるようになりました😊

道沿いに設置されたベンチで、ゆったりとくつろがれ、行きかう人とのささやかな交流が始まっています。

お年寄りが表に出て和まれていて、地域の方とあいさつを交わす姿は、良いものと思います。



6.活動エピソード (6) (7)

(6)持ち込みエピソード②

茶話どころー休様

ホッとベンチは、事業所の玄関側に置いています。地域のの子供たちが、遊び疲れたときに、ベンチに座って水分を取ったりして休まれています。職員の子供たちが来た時も、座っている姿を見ます。

子供たちが安心して座れる場所が出来て、子どもたちの歓声と笑顔がある風景が見れて良かったと思います。



(7)持ち込みエピソード③

やっさWAVE様!

やっさWAVEでは、玄関脇にホッとステーションベンチを置いています。ホッとステーション事業について、放送の中で紹介して、youtubeにも公開しています。玄関脇のベンチは、ダンス教室の子どもたちが憩いの場として座って皆でワイワイと活用している。来訪者が一息つく場所としても活用され、ベンチを中心に人の輪ができています。



6.活動エピソード (8) (9)

(8)持ち込みエピソード④

(特非)みんなの居場所ありのまま様

主に活動中のホッとひと休みに使っています👍

不登校の子を持つお母さん向け「横芝光町お泊まり観光ツアー」の時にベンチでおいしいお弁当を食べました😊

ベンチは、いつでも来てゆっくり座っていって下さいという無言のメッセージになっていると思います!!

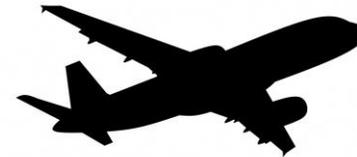


(9)持ち込みエピソード⑤

成田航空科学博物館様

校外学習で来られた子どもたちや、県外から見えた来館者の方、千人規模のイベントなどで地域の方が見えられたときに、皆さんが活用されています。

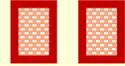
ホッとステーションベンチは、とても目立つので、PR効果は高いと思います。このあいだ、三世代の家族らしい方が見えられて、家族でベンチに座って写真を撮られていました。人が自然に集まる場所ができる事は、微笑ましいと感じました。



7. ホットステーション活動の成果と変化(自己分析・評価)

(1) 活動の理解者・協力者を増やす

「協力」ではなく「協同」へ
＜複数の人が力を合わせること＞



「1つ」の活動に協力するのではなく、
みんなで協同して「1つ」を作る

(3) 多分野・多機関からの協力

- | | | |
|-----------------|---------|-------|
| ①福祉（高齢・障害・児童 他） | ②飲食店 | |
| ③地域交流機関 | ④教育施設 | ⑤塾 |
| ⑥医療機関 | ⑦デザイン会社 | ⑧建築会社 |
| ⑨自動車整備会社 | ⑩図書館 | ⑪町役場 |
| ⑫空の駅 | ⑬観光施設 | ⑭寺社 |
| ⑮高校・大学 | ⑯病院 | ⑰その他 |

(2) フードバンクちいき（こども）食堂

- ①フードバンク寄付者の増加
- ②子ども食堂のニーズの増加
- ③地域イベント開催が大人気



「SDGs」「フードロス」「居場所」
のキーワードが広く伝わりやすく共感を生んだ

(4) ボランティア活動の効果

- ①ひきこもり傾向の人
- ②自暴自棄傾向の人

支援される側



支援する側

- ③コロナ禍で地域活動経験ゼロの学生
- ④仕事経験がゼロの人

活動実績ゼロ



経験者(自信↑)

8.外部視点からの分析・評価:報告会での言葉から①

「地域がにぎやかになればいい」

- 椅子やベンチを置くことで、1年目は様々な「点」が出来た
- 本年度の実績：35カ所を提供（居場所機能）

*普段見かけないものがまちの中に現れることで生まれる“ざわつき”

→「リスクマネジメントやできないことの理由づけをしようとした」ところもあった

⇒ただ、結果的にリスクコミュニケーションが活性化されたり、できるためにやれることを考えるきっかけにもなったのではないかと

※斜体となっている部分は報告会で話された言葉を表す（以下、同）

8.外部視点からの分析・評価:報告会での言葉から②

「（同じフラッグとベンチ）まちの中でよく見かけるよね」

→仲間意識や連帯感につながる

*多くの機能を備えた居場所を1つ作るのではなく、多機能・多分野の居場所を地域の中にたくさん作る

→「緩いつながり」の場所を地域の中にたくさん増やす



- 市町村区域や“福祉”という枠組みに捉われない居場所ができる
- 制度の狭間にいる人や制度を使いたくない人にも届く

念頭にあった「こども110番の家（店）」に近い効果が発揮されている

8.外部視点からの分析・評価:報告会での言葉から③

「どのように地域で活用してもらえるか」

→資源を作るときに考えがちなのは「どう活用してもらうか」



- 資源を活用するのはあくまで地域にいる人
 - 地域での活用方法によって、様々な活動や活用が生まれる余白がある
- 思いもよらない“つながり”ができることも



8.外部視点からの分析・評価:報告会での言葉から④

子ども食堂（ちいき食堂）：「久しぶりに外でみんなで食べた」

実績：計21回実施 参加者合計1,955名



*誰かと一緒に食べることの大切さ

- 高齢の独居男性では孤食だと共食に比べて2.7倍、
- 高齢の女性では同居でも独居でも孤食であると共食に比べ1.4倍もうつ症状を発症しやすいという研究もある

参照：Tani Y, Sasaki Y, Haseda M, Kondo K, Kondo N: Eating alone and depression in older men and women by cohabitation status: The JAGES longitudinal survey. Age Ageing 44 (6): 1019-1026, 2015

8.外部視点からの分析・評価:今後に向けて①

■今年度できた「点」をどうやって「線」や「面」にしていくか

→同時に、補助金事業が終わった後もどのようにして「維持」していく／もしくは別のしかたにしていくなのかも考えていく必要がある



行政など公的な立場の方の参加もあり、継続的な“活用”にもつながるのか（市町村独自の活動や制度化）



各地区でも様々な歴史や経験がある

（どう活動に組み入れられるか）

8.外部視点からの分析・評価:今後に向けて②

■「無理をしない」「自分たちのできる範囲で」続けていく中で、「地域のかをつけていく」ためできることは何か

現状の活動への工夫として…

例) フラッグやベンチをより有効に活用できないか

・フラッグやベンチを主体にして考えてみるても良いのでは？

（人ではなく、“モノ”に語る仕組み）

→座りたくなるベンチ、写真を撮りたくなるフラッグ・ベンチ…

*工夫に協力してくれる人たちを探していく



8.外部視点からの分析・評価：分析資料

本事業の効果分析

城西国際大学 福祉総合学部 森山拓也

はんどいんはんど東総 和田大史

8.外部視点からの分析・評価：分析資料

事業目的

不登校・ひきこもり、生活困窮者、就労困難者、社会参加の機会を失った方や地域住民誰もが地域で安心して過ごせて相談できる場所、学校でもなく自宅でもない、地域の人と交流し安心して過ごせる「居場所」を創り、就労困難者には職業体験及び訓練を行える機会を提供することを目的に、**多分野多機関が協同**し「人・モノ・情報・場所」等を可能な範囲で共有し、**住民個々人の「生活圏域」で気軽に立ち寄れる居場所「ホットステーション」を各地に創る**ことで「居場所又は相談・社会参加・就労」等の支援が受けられる地域づくりを行う事業

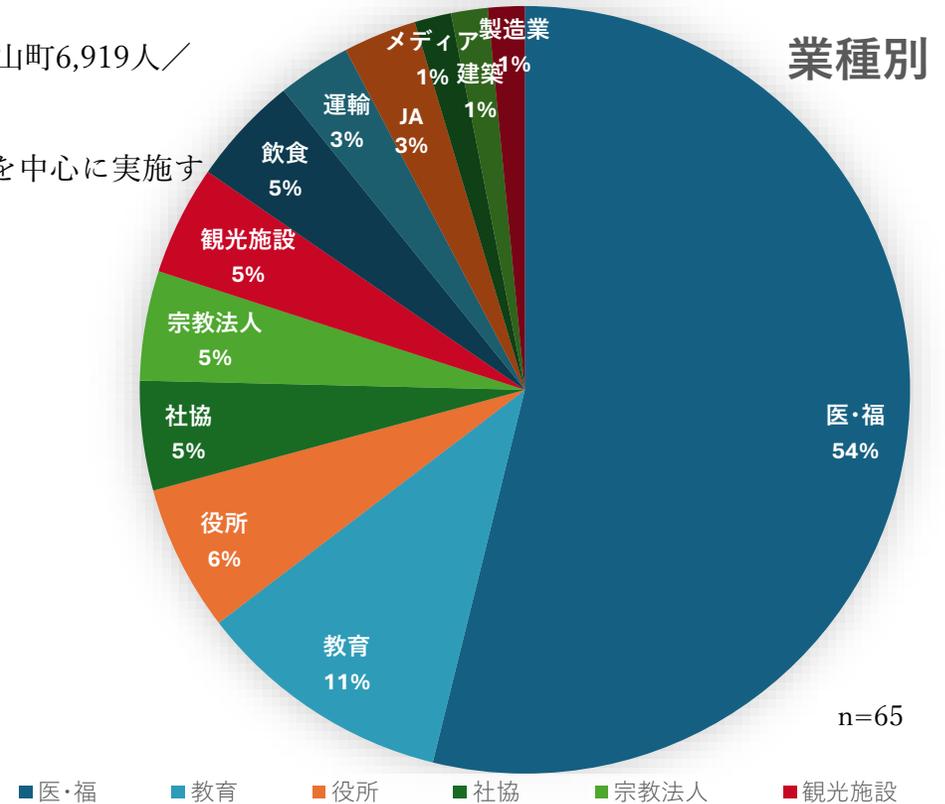
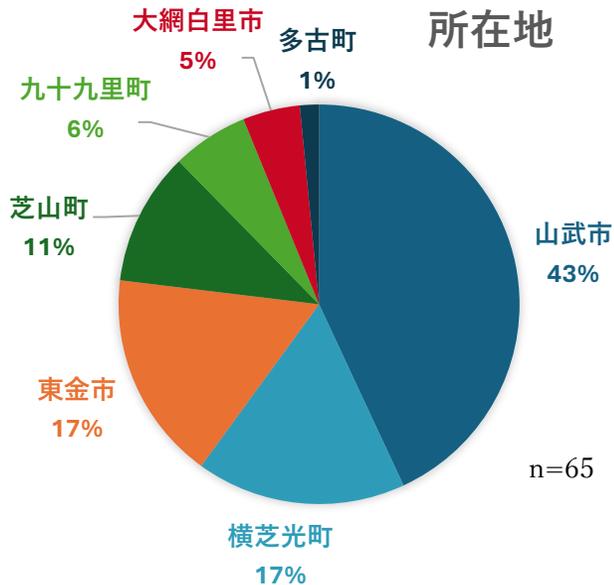
対象

千葉県山武圏域

(3市3町195,878人：北部：山武市47,582人・横芝光町21,729人・芝山町6,919人／南部…東金市57,579人・大網白里市47,808人・九十九里町14,261人

※2021年12月1日現在)

及び周辺圏域の方を対象とし、特に北部(山武市・横芝光町・芝山町)を中心に実施する。

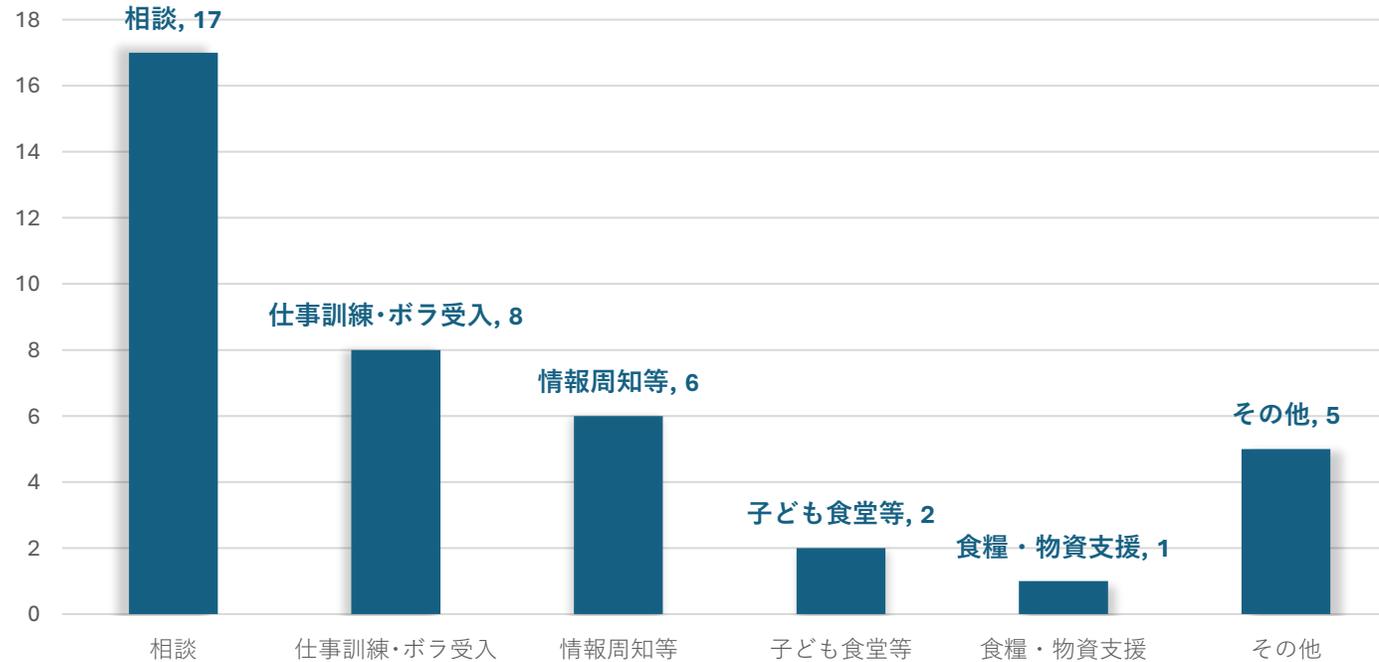


8.外部視点からの分析・評価：分析資料

事業目的

不登校・ひきこもり、生活困窮者、就労困難者、社会参加の機会を失った方や地域住民誰もが地域で安心して過ごせて相談できる場所、学校でもなく自宅でもない、地域の人と交流し安心して過ごせる「居場所」を創り、就労困難者には職業体験及び訓練を行える機会を提供することを目的に、多分野多機関が協同し「人・モノ・情報・場所」等を可能な範囲で共有し、住民個々人の「生活圏域」で気軽に立ち寄れる居場所「ホッとステーション」を各地に創ることで「居場所又は相談・社会参加・就労」等の支援が受けられる地域づくりを行う事業

提供資源



まとめ

当初計画での事業の特色

- ①市町村単位ではなく、広域を対象とした事業
- ②複数の事業を連携させて実施する事業
- ③全世代を対象とした事業
- ④地域の機関・店舗・団体が可能な範囲で「人・モノ・情報・場所」等の協力をしてもらうことで成り立つ事業。
- ⑤地元の大学である城西国際大学や地域行政にも協力してもらいながら、継続できる活動・事業を目指す。
- ⑥孤独・孤立、ひきこもり、生活困窮者、就労・居場所等にかかる活動自体を社会資源の一つとして活用する事業。

⇒上記①～⑥について、概ね当初計画通りの特色を持った活動となっている。
今後、継続的に質・量の拡充が望まれる。

8. ホットステーション活動の展開と展望

【2022年度／1年目】

対象地域:山武郡市北部地域（山武市・横芝光町・芝山町）を中心として他の山武地域にも周知

対象者:関係機関への周知・理解・協同を募り機関が増えてから住民に周知

活動:本事業実施に注力

おおむね**達成!!**

【2023年度／2年目】

対象地域:山武郡市南部（東金市・大網白里市・九十九里町）中心に拡充する

対象者:「住民による活用」に注力し活用促進

活動:他の地域づくり活動と相互連携。ひきこもり者向けの集いを開催

【2024年度／3年目】

対象地域:山武郡市全域 → 「山武圏域周辺」の市町へ活動拡大

対象者:一般企業等へ協同機関加入に注力

活動:ホッとつながるフェスタの定期開催(4回程度)、フードバンクさんぶの独立した流通システムの構築。協同機関ネットワークの発災時ネットワーク化及び相談機関機能の拡充